

エゼキエル書28章2節 「人であって、神ではない」

1A 富を集めた知恵

2A この世の神サタン

1B ツロの王の正体

2B 高慢の罪

3B 自分を高める世

3A 思いの一新

1B 「神のかたち」とは？

1C 神と交わりをする存在

2C 礼拝と奉仕

3C 神から独立する欲

2B 「神に似た者」になる

1C 神の愛を知る

2C 神の命令を守る

3C 兄弟を愛する

4C キリストの現れを待つ

本文

エゼキエル書 28 章 2 節を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、25 章からになります。午後に 25 章から 28 章までを一節ずつ読みますが、今朝は 28 章 2 節に注目します。「**人の子よ。ツロの君主に言え。神である主はこう仰せられる。あなたは心高ぶり、「私は神だ。海の真中で神の座に着いている。」**と言った。あなたは自分の心を神のようにみなしたが、あなたは人であって、**神ではない。**」

ツロという、レバノンにある都市国家ですが、彼らは世界貿易によって巨額の富を蓄積し、世界を支配していました。それで「私は神だ」と言っていたのです。けれども、主なる神ご自身が、「あなたは人であって、神ではない。」と宣言されます。ツロが脆くも、バビロンやギリシヤによって攻撃を受け、廃墟となることを預言しています。

ついー昨日、興味深い記事を読みました。間もなく米国ではトランプ氏が大統領に就任されますが、米国の著名な投資家であるジョージ・ソロス氏が、トランプ氏が大統領選で勝利して以降、10 億ドル(1100 億円)近い損失を出したというニュースです。彼は、ヒラリー氏を大統領に当選させるために、その選挙対策委員会に 600 万ドルを資金提供していましたが、それに加えて、ヒラリー氏ではなくトランプ氏が当選したことで、投資相場を見誤ったということで、10 億ドルの損失を出した

ということです。なぜこの話を出すかと言いますと、彼はかつて、「私は神だ。私が全てを創造した。」と発言したことがあるからです。彼は非常に知恵をもって巨額の金をどこに投資するか分かっていました。そして、国々の経済や政治にも影響を与えるほどの力を持っていました。自分は、一般の規則や規制の上にいるとみなしています。それだけ自分は自由自在に物事を操れるのだと思い込ませていました。¹

このニュースが出た時に、私はエゼキエル書のツロに対する預言を読んでいましたから、文字通りのことが起こっているのだな？と思いました。イエス様は、「マモン」という富の神について言及されたことがありますね。知恵によって富が集まり、そして富は国々を動かすほどの力を持っています。今朝は、自分たちを神とまでみなしてしまうほどの高ぶりが、この世には存在するというものを見ていきたいと思います。

1A 富を集めた知恵

預言者エゼキエルは、エルサレムがバビロンによって破壊されることを預言した後に、今度は周囲の国々に対しての預言を行ないました。その中で多くの言葉を語っているのが、イスラエルの北にあるツロという国と、南にあるエジプトに対するものです。エジプトに対する預言は次回、読んでいきますが、ツロについて見ていきたいと思います。

今、レバノンにあるツロは、国連のユネスコによって世界遺産に登録されてあるものです。紀元前 3000 年から建てられている古代文明都市です。この町は非常に小さいですが、地中海を舞台としてその海洋力を発展させ、地中海のあちらこちらに植民都市を建てました。そして世界を相手に貿易を始め、とてつもない巨大な富を蓄積させたのです。そして当時、イスラエルとの関係においては、かつてダビデとソロモンは、ツロの王ヒラムと友好関係を結び、神殿と宮殿の木材は、レバノンの杉をツロから輸入しました。しかし、エルサレムがバビロンによって滅んだ後に、近隣にある通商のライバルでもあったイスラエルが滅んだことを喜びました。しかし、エルサレムを滅ぼしたバビロンはすぐに、ツロをも包囲します。それから二百年後ぐらいに、ギリシャのアレキサンダー大王が徹底的に滅ぼし、そこはなんと裸岩にまでなってしまう。

2A この世の神サタン

私たちに力と知恵を与えられるのは、天地万物を創造した神ご自身です。そして人となって来られたキリストご自身です。「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。(コロサイ 2:3)」「キリストはすべての支配と権威のかしらです。(2:10)」と使徒パウロは言いました。私たちは、このことを生活の中で実感しているでしょうか？正直には、なかなかできていないと言えないでしょうか？あらゆる事柄において、キリストの内に知恵と知識があるのだから、絶えず

¹ <http://www.independent.co.uk/news/business/the-billionaire-who-built-on-chaos-gail-counsell-charts-the-rise-of-a-speculator-who-considers-1489380.html>

主の前に出て、祈り、へりくだることが必要ですが、そうしていない時があります。また、あらゆる支配と権威がキリストの下にあることを知らないといけないのですが、そうになっていないことがあります。そうではなく、もう既にキリスト抜きで、代替の力や知恵がこの世にはあるからです。私たちが普通に過ごしている日常生活の中に、人の知恵が蓄積されているもので満ちあふれています。それにすがっていれば、ことさらにキリストを思わなくても、過ごせてしまいます。

1B ツロの王の正体

そのような世の制度の中に私たちは生きています。そしてツロという国は、その制度を最も大きな形で体現している存在です。巨大な富を抱えて、地中海沿岸とその周囲の地域を全て支配していたので、その中に生きるということによって、自分たちは普通に豊かに暮らすことができたのです。そして、主なる神がおられることは度外視して人々は生きていました。

エゼキエル 38 章は、ツロを支配している真の支配者の正体を暴いています。ツロには君主がいました。君主は、今読んだように、自分は神だと思っていました。しかし、もちろん違います。その人間君主は、実は墮落した天使ケルブ、すなわちサタンによって支配されていることを、神は暴かれます。12 節以降にそれが書かれています。「28:12-15 人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう仰せられる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石があなたをおおっていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、しまめのう、碧玉、サファイヤ、トルコ玉、エメラルド。あなたのタンバリンと笛とは金で作られ、これらはあなたが造られた日に整えられていた。わたしはあなたを油そそがれた守護者ケルブとともに、神の聖なる山に置いた。あなたは火の石の間を歩いていた。あなたの行ないは、あなたが造られた日からあなたに不正が見いだされるまでは、完全だった。」14 節前半は、直訳ですとこうなっています。「あなたがたは油注がれた守護者ケルブ。わたしはあなたにあたえた。」そうです、イザヤ書 14 章には、「バビロンの王」に対する預言の中に、「ルシファー」とも呼ばれる存在を暴いていましたが、最高級の天使長が高ぶって墮落した預言が書かれています。この世の神はサタンであり、サタンが世を支配しているので、神とキリストがいなくても、自分は生きることができ、知恵と力を得ることができると思込ませているのです。

2B 高慢の罪

そしてこのケルブは、17 節には、「あなたの心は自分の美しさに高ぶり、その輝きのために自分の知恵を腐らせた。」とあります。「自分が、自分が」と言わせていくその高ぶりがケルブを腐らせました。明けの明星ルシファーも同じでした。「イザヤ 14:14 あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』」自分を高めよう、自分を高めようとしています。この高ぶりの力が、世に働いています。けれども、「箴言 18:12 人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は榮譽に先立つ。」とある通りです。

3B 自分を高める世

高ぶりによって墮落したサタンが支配している世ですから、世の制度には私たちを高ぶらせる価値観に満ちています。「私が、私が」と言わせるように、この世は造られています。自分を高めるか、あるいは自分を卑下するにしても、神ご自身の恵みの中で生きるように妨げるものは、すべて高ぶりです。したがって、私たちが先週、成増バイブルスタディで学んだローマ書 12 章 2-3 節の言葉があるのです。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。」

この世と調子を合わせる、とは「この世にある枠組み、型にはめられる」という意味を示しています。私たちが自己実現、自己愛、自己追求をするように、型にはめられています。けれども、そうなるはいけない、ということです。その代わりに、神の御心をわきまえ知るために、思いの一新によって自分を変えなさいと命じられています。どのように変えるのか？それは、パウロがここで言っているように、「与えられた恵み」があります。そして「信仰の量り」があります。神によって与えられた恵み、そして神を信じる信仰によって、私たちが世から思いが清められ、神の御心を行なうことができるのです。

3A 思いの一新

1B 「神のかたち」とは？

1C 神と交わりをする存在

ところで、私たちは、「神」ではありませんが、「神のかたち」に造られています。「創世 1:26-27 として神は、「われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。」と仰せられた。神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女に彼らを創造された。」ここで大事なのは、何をもちて神のかたちなのか？ということです。それは、霊を造られたということがあつてしょう。「神である主は、土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで、人は、生きものとなつた。(2:7)」神の霊が、その人の中に入つてということで彼は生きるものとされました。つまり、「霊によつて交わりをする」ということが、神の形に造られたということとあります。コリント第一に、「6:17 しかし、主と交われば、一つ霊となるのです。」とあります。私たちが神と交わりをするために、造られたという意味で、「神のかたち」と言つて居るのです。神のようになるのではなく、神と一つになるように造られているのです。

2C 礼拝と奉仕

その交わりとは何か？それは、神が恵みをもつて臨んでくださり、養い、強め、命を注ぎ、全ての

ものの源となってください。そして私たちがそれに応答して、神により頼み、神に従い、神の命令を行なうこと。主に自分自身を捧げ、礼拝することです。私たちが神に似た者であるということが、自分自身に力と知恵があり、権威があり、自由があるのだ、ということではありません。神に力と知恵があり、権威があり、自由があるのですが、その中に信頼と服従によって、神のものが自分のものになるということです。自分に大きな力や知恵、また正義や愛などが満ちあふれるなら、それは私自身が神に心が一つになっていて、神に全てを明け渡しているから、すべて神の力、知恵、正義や愛なのです。神から独立して、神の形や、神に似た者となることを考えることは決してできません。

ですから、神に造られた目的として最高のことができるのは、礼拝することです。全てをこの方に明け渡すことです。イエス様は、「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。(ヨハネ 4:24)」と言われました。そして黙示録には、天で礼拝している長老たちが、「あなたのみこころ(悦び)のゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。(4:11)」と言いながら、礼拝を捧げました。そして新しいエルサレムでは、「神と小羊との御座が都にあって、そのしもべたちは神に仕え、神の御顔を仰ぎ見る。(22:3-4)」とあります。

3C 神から独立する欲

これが、私たちが神に似た者として、生きることです。私たちはあくまでも器です。自分たちが神のように磨かれて、輝きを増すのではありません！私たちの霊性が向上して、それで神の基準に達して、小さな神々ができるのではありません！しかし、なんとしばしば、私たちは、「キリストのようになる」「神のようになる」という時に、自分自身が修練の結果、神のレベルに達すると思ってしまうことでしょうか！

神と独立してこの言葉を考えたら、大きな間違いであるだけでなく、サタンの罠になります。サタンがエバに、「あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。(創世 3:5)」と言いました。私たち自身が変わるのではなく、キリストに全てを明け渡し、交わりをしていて、一つになっていること、それが似た者になることであります。

2B 「神に似た者」になる

それで、コリント第二 3 章 18 節を読みましょう。「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」私たちはいつまでも、私たち、人間であります。弱き器、いいえ、神の霊を入れて、また溢れ流れることのできる器であります。しかし、器であることを徹底して貫く、つまり、へりくだることが必要です。その時に、御霊が私たちに自由に働いてくださいます。私たちは理解できなくても、この方に従い、この方に導かれます。そのうちに、自分のうちにキリストが現れてくださいます。自分の気づかぬうちに現れてくださいます。

1C 神の愛を知る

改めて整理しますと、神に似た者になるための一歩は、「神の愛を知る」ことです。「愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。(1ヨハネ 4:7)」私たちは、キリストが自分の罪のために供え物となってくださった、その愛を知ります。その時に自分の石のようにになっている心も肉によりになり、神の愛を宿すことができます。

2C 神の命令を守る

そして、神の愛に生きることは、神の命令を、神を愛しているがゆえに守ることです。「しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。(2:5)」みことばを保っておく、心に蓄えて、それにしがみついて、主に頼ることです。そうすると、神の愛がその人のうちに全うされています。

3C 兄弟を愛する

そして神の命令の第一のものは、「兄弟を愛する」こととあります。「神を愛するとは、兄弟をも愛するべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。(4:21)」神の愛を知れば、神の命令を守ります。そして神の愛を持っていれば、同じように神によって生まれ、愛されている兄弟たちを愛するはずで、神との交わりを持っていれば、そのようになるはずで。

4C キリストの現れを待つ

そして最後に、神に似た者になるということは、終わりの日にキリストが現われることを待ち望むことです。「3:2-3 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」イエス様が戻って来られる時に、キリストに似た者になるという御霊による働きが、完成します。この卑しい、朽ちる体が栄光の体に変えられます。しかしその栄光は、自分自身の栄光ではなく、キリストに完全に結ばれているところから放たれる、キリストご自身の栄光の反映です。その時は、キリストの花嫁ではなく、確かに小羊の妻として結ばれて、キリストの栄光を完全に現すようになるのです。

ぜひ、主との交わりの中に入ってください。